



成隣だより

平成29年8月29日

第5号

昭島市立成隣小学校

校長 加賀田 真理



一步を踏み出す勇氣

校長 加賀田 真理

長かった夏休みも終わり、学校に元気な子供たちの笑顔が戻ってきました。

もしかしたら、夏休みが終わってしまうことを、ちょっぴり残念に思いながら今日を迎えたお子さんがいる（全員？）かもしれませんが、そんな思いをもちながらも元気に学校に来てくれたことを、とてもうれしく思います。しかし、友達や先生方の顔を見てそんな思いも吹き飛んだことと思います。一步を踏み出し、動いてみることで気持ちを变えていくことを、今日は体験できたのではないのでしょうか。

今、子供たちの心の中には「2学期は、このことをがんばろう！」という思いも、きっとあると思います。また、ひとまわり大きくなって帰ってきた子供たちが、ワクワク・ドキドキする気持ちを大切にして、長く、行事の多い2学期を楽しみながら一步ずつ階段を上っていくことに期待しています。

しかし、新たなことと出会った際に、「やってみよう！」「挑戦してみたい！」などの気持ちがすぐにわきあがってくる場合もありますが、内容に興味・関心がもてなかったり、あまりにもハードルが高すぎたりすると、取り組んでみようとする意欲がなかなか高まらないことは、だれにでも経験があることかもしれません。

学校でも、「学力」の重要な柱のひとつとして「関心・意欲・態度」という観点で、段階を経ながらステップアップしていくことができるように取り組んでいます。

○関心・・・「おもしろそうだなあ。」（でも、やってみるほどではない。）



○意欲・・・「やってみよう。」（でも、一度やったからもういいや。）



○態度・・・「続けていこう。」「もっと工夫してみよう。」

などのように、学習した内容が日常的な活動にまで高まり、生活に定着するように取り組みを行っています。

そこには内容を熟知している経験者（この場合には先生）からの働きかけや意欲を引き出す工夫など、出会い方も大切ですが、そのような“未知・未経験”のことに対して「試してみよう！」「挑戦してみよう！」という気持ちを本人がもつかどうかや、実際に飛び込んでみる行動力がとても大切になるのだと思います。

以前、NHKの番組でアニメ作家の宮崎駿さんが、「絵の表現（人物の描写）にも、絵を描いた人の生き方が表れる。」というような意味のことを話されながら、アニメーターの描いてきた“木の枝を避けるように顔を背けて走る”主人公の絵を、“木の枝など気にせず前めりに顔から突っ込んでいく”絵に直されていました。

初めて行うことには、だれでも不安感や恐怖感を抱くものではありませんが、そこで一步踏み出す勇氣があれば、新たな出会いや自分の可能性が広がっていきます。

「飛び込んでみる。」という気持ちや行動力は、もしかしたら人生を左右するくらい大きな、大切な才能のひとつであるのではないかと感じています。

2学期も、新たな取り組みに子供たちは精一杯挑戦していくことでしょう。でも、初めてのことに失敗もつきものです。ぜひ、失敗を恐れずに挑戦した時には、「一步を踏み出した勇氣」をほめてあげてください。

その「一步」を促し、さらに大きく育てていくことができるよう、学校でも取り組みを進めてまいります。2学期も、子供たちへの励ましをよろしくお願いたします。